

令和6年度
静岡市協働パイロット事業

大谷・小鹿における協創プラットフォーム構築に
向けたコミュニティリーダー発掘・育成事業
事業報告書

特定非営利活動法人ESUNE

令和7年3月17日

1. 事業概要

①事業名

大谷・小鹿における協創プラットフォーム構築に向けたコミュニティリーダー発掘・育成事業

②協働相手先

静岡市都市局都市計画部大谷・小鹿まちづくり推進課

③実施期間

令和6年7月3日から令和7年3月31日まで

④事業内容

(1)コミュニティリーダーの発掘

大谷・小鹿地区ですでに活動していたり、まちに対して思いを持っている住民をコミュニティリーダーとして発掘する。

(2)勉強会の実施

まちづくりに関する有識者を招き、(1)で発掘したコミュニティリーダーを緩やかに繋げながら、大谷・小鹿地区のまちづくりに必要な視点を学びあう場を設定する。

(3)協創プラットフォームの設計

大学と地域住民が気軽に関わり合うことができるプラットフォームを設計する。

2. 事業実施報告

(1)コミュニティリーダーの発掘

- 事業開始後、大学生とともに「大谷・小鹿まち育てプロジェクト」を発足すると同時に、住民伝いで大谷・小鹿地区で活動する住民や事業者を紹介いただき、インタビューを実施した
- 合計10名の住民・事業者にインタビューを実施し、インタビュー内容を『大谷でまち育てBOOK Vol.1』として編集し、それぞれの想いを可視化した冊子として発行した



(2)勉強会

- 令和7年11月26日に、「大学生と育む“まち育て”のはじめ方と育て方」と題して、一般社団法人おやまちプロジェクト代表理事の高野雄太氏、NPO法人アクションポート横浜代表理事の高城芳之氏の2名にお越しいただき、静岡大学にて関係者交えて16名の勉強会を開催した。勉強会では、参加者がまちで

やってみたいこと、生まれたら嬉しいことを共有・対話を通じて深め、その結果、2回目の勉強会を実施することが決定した

- 令和7年12月19日に、第2回目の勉強会を静岡大学にて12名で実施した。第1回目の勉強会でのアイデアを具現化するための議論を行い、最終的に、宮川公民館を活用したイベントを試験的に実施してみることが決定した。終了後、近隣の飲食店で大学生・住民の懇親会を実施した。



(3) 協創プラットフォームの設計

- プラットフォーム設計のため、(1)で出会った住民・事業者や(2)での勉強会の議論を受けて、令和7年1月26日に宮川公民館にて、「大学生、公民館で過ごす」というトライアルイベントを実施し、13名の大学生・住民、またイベントをきっかけに地区外在住者が参加した。
- 他地域での協創プラットフォームの事例も分析し、令和7年2月17日に静岡市大谷・小鹿まちづくり推進課と検討資料をもとにプラットフォーム要件について議論した。また、重要なポイントなどを「出会いが、暮らしの喜びと豊かさに変わっていく舞台をつくるー地域プラットフォームでまちを育てる」と題して、『大谷でまち育てBOOK Vol.1』にまとめた。



3. 事業を通じた成果と今後の課題

【成果】

- 発足した「大谷・小鹿まち育てプロジェクト」には7名の大学生・高校生が参画し、活動を通じて大学生と地域住民・事業者19名の新たな社会関係が創出された。
- インタビューを通じて出会った住民から、活動スペースの無償提供があったりと、次年度以降の新たな展開を検討するための資源も提供された。
- プロジェクトチームは現在も継続しており、一部の住民とともに、3月下旬には独立した勉強会を開催予定である。また、来年度は大谷地区の自治会・町内会のお祭りや行事などに大学生が参加したり、新たな企画をともに進める自律したコミュニティとして成長している。

【課題】

- 小鹿地区のインタビューも進めたかったが、住民とのアクセスが難しく、結果的に本事業では大谷地区に絞った活動を進めることとなった。次年度以降、インタビューを通じた人材発掘、勉強会の開催、トライアル企画などのスキームを活用しながら、他地域での展開も検討していきたい。
- 今後は具体的な活動が活発になっていくが、「大学生が地域のイベントのお手伝いをする」という機会だけではなく、「様々な主体が協力し、創り合うことで、これまでなかった価値が地域に創出される」機会を生み出すことが課題となる。そのため、小さくとも多様な活動を生み出しながら、多様な主体が緩やかに、心地よく関われるウェルビーイングな協創プラットフォームを根付かせていきたい。

以上